

かけはし

The Newsletter of The Faculty of Engineering,
Kumamoto University
編集・発行 熊本大学工学部広報委員会
工学部ホームページ <http://www.eng.kumamoto-u.ac.jp>

2010/4 No.19

熊本大学設立60周年記念式典・記念講演会

歴史と伝統を踏まえ、新たな未来へ

News & Topics

未来を見据えた研究拠点として

世界に通用するリーダーを育成する大学へ



熊本大学は、平成21年5月で昭和24年の新制国立大学発足から60周年を迎え、11月2日に熊本県立劇場において記念式典および記念講演会を開催しました。

記念式典には、文部科学大臣代理・加藤重治審議官をはじめ、蒲島郁夫熊本県知事、近隣大学の学長、熊本県選出の国会議員ほか、国際交流協定を締結している海外11カ国19大学の学長等45人が参加。総勢約600人が式典に臨みました。

式典終了後、細川佳代子氏と茂木健一郎氏が講師に迎え開催した記念講演会には多くの観客が詰め掛け、熱心に耳を傾けました。

細川氏は、最初に本学の「永青文庫研究センター」が昨年4月に開設されたことに対して謝辞を述べ、「可能性への挑戦」と題する講演の中で、信長・秀吉・家康の激動の時代においてすべての支配者の信頼を得た細川家の知恵の一つが「全国の情報収集」だったことを披露し、永青文庫は細川藩歴代当主が命を懸けて残した古文書を保有する貴重なものであることを述べました。また、元熊本県知事であり元総理大臣の夫護熙氏との結婚当初からこれまでの裏話も交え、親しみあふれる講演内容に聴

谷口功学長の式辞では、これまでの軌跡を重んじながら未来を見据えた研究拠点として、世界にはばたくリーダーを育成し、さらに地域に根ざした国際的な大学を目指す決意を明らかにしました。

その後、来賓による祝辞、国際交流協定校の学長紹介に引き続き、これまで優れた業績や顕著な功績を残した方々に対し名誉博士並びに名誉フェローの称号授与が行われました。当日は被授与者12名(名誉博士4名、名誉フェロー8名)のうち9名の方にご出席いただき、谷口学長から称号が授与されると会場から惜しみない拍手が沸き起こりました。

最後に、上海師範大学民族管弦楽団による中国伝統音楽が奏でられ、式典を華々しく飾りました。

衆は魅了されました。

続いて、すでに各種メディアでもお馴染みの脳科学者である茂木氏は「心と脳」について講演し、脳が元気が、そうでないかは「人生の不確実性を楽しんでいるかどうか」であり、そのためには幼児期に親や周囲から与えられてきた「心の安全基地」を見守ってもらう安心感が重要であることを述べました。また、1千億もある脳の神経細胞は一生働き学習し続けるのだから、何歳であっても情熱さえあれば学び始めるのに決して遅すぎることはないと述べました。そして、若者に対しては、自分のためではなく誰かのために事を成すことが無限のエネルギーを生み出すことを知ってほしい、また、他に見えない学問のスタイル・質を自らつかみ取り、志を高く理想の姿を描いてほしいと語りかけました。



News and Topics

01 熊本大学設立60周年記念式典・記念講演会 … P1

Events

- 02 60周年記念関連事業 … P2
- 03 大学サイエンスフェスタ … P2
- 04 夢科学探検 2009 … P3
- 05 工学部運動会 … P3
- 06 WINTER CHALLENGE 2009 … P3
- 07 もの・クリCHALLENGE 2009 … P3

Feature Articles

- 08 経済産業省低炭素化実証実験プロジェクト … P4
- 09 学科便利 -物質生命化学科 … P5
- 10 学科便利 -社会環境工学科 … P5
- 11 研究室公開のお知らせ … P5

Voice

- 12 卒業生からのメッセージ … P6
- 13 工学部長と学生代表との懇談会 … P6
- 14 短期滞在研修プログラム(南台科技大学) … P6
- 15 熊本大学関西リエゾンオフィスの開設 … P6

60周年記念関連事業

国際学長フォーラム

これまで東京・大阪を皮切りに中国、韓国、熊本、インドネシアで実施してきた「熊本大学フォーラム」の第7回目は、大学の60周年記念式典に合わせる形で、昨年10月31日に熊本において国際学長フォーラムとして実施し、世界11カ国の交流協定大学26校の学長・副学長が参加しました。

午前の部は国際学長会議を行い、海外協定校7校の発表と各大学の国際的教育研究連携についての紹介、具体的な共同研究



や共同人材育成プログラムの形成などについて議論しました。

午後からは大学関係者や地元市民を対象に記念講演会を開催し、午前の国際学長会議の成果報告と海外協定校の国際化推進活動について発表があり、本学からは国際化戦略の概要や特徴的な取り組みを紹介しました。

本学は国際化推進を全学的な重点課題として位置付け、本フォーラムの実施を始め、教職員や学生の積極的な国際交流活動を展開しています。

第2回熊本大学 東京連合同窓会 を開催

昨年11月29日に「第2回熊本大学東京連合同窓会」が東京・上野公園の上野精養軒において開催されました。

総会では前田勝之助東レ株式会社名誉会長（工S28年卒）の本会の名誉会長への就任報告が行われ、記念講演会では谷口学長から「未来に挑戦する熊本大学へ」と題して、自然科学研究科の秋山教授からは「超瞬間極限力を操る研究者達の挑戦」と題した講演が行われ、出席者は熱心に聞き入っていました。

交流会では旧友との思い出話に花を咲かせながら、体育会応援団の森団長が「五高寮歌」の前置きである「巻頭言」を切り、出



席者全員で寮歌を熱唱し、大盛況のうちに終了しました。

第4回熊本大学 ホームカミングデー を開催

今回で4回目を迎える熊本大学ホームカミングデーが昨年11月1日に開催されました。この行事は、本学の卒業生等を招き、大学の近況に触れ、懐かしい学友や恩師との再会と交流、親睦を深め、本学の教育・研究活動に対する理解を深めてもらうことを目的として平成18年度から行

われています。

工学部百周年記念館で行われたイベントでは、谷口学長・岡村同窓会連合会副会長からの歓迎の辞、谷口学長による本学の近況報告に続き、大学院自然科学研究科の河村教授の「世界に羽ばたくKUMADAIマグネシウム合金」と題した講演と、大学院社会文化科学研究科の森教授の「永青文庫資料から見る物語史」と題した講演が行われました。

その後キャンパスツアーと懇親パーティーが催され、現役学生による応援団演舞やチャリダーによる華麗な演技とともに、今回は、大学間交流協定校である上海師範大学民族管弦楽団による中国伝統音楽の演奏も披露されました。最後に第五高等学校時代の寮歌である「武夫原頭」に草萌えてを全員で合唱し盛況のうちに閉宴しました。

卒業生からは、熊本大学の現状が良く理解でき、来年も参加したいなどの感想が寄せられ、今後のホームカミングデーの継続に熱い期待が寄せられました。



大学サイエンスフエスタ

極限を制御せよ!

衝撃エネルギーと熊大マグネシウムが 拓く未来

本学の特徴ある研究内容を紹介する企画展示イベント「大学サイエンスフエスタ」が、昨年11月20日～29日に東京・上野公園の国立科学博物館で開催され、約1万6千人の方に来場いただきました。

今回の展示は、身近にあるエネルギーを瞬間的に凝縮して超強力なパワーとして作用させる衝撃エネルギー科学や熊本大学で開発された新合金をテーマに以下の4つの研究を取り上げ、一般の方にわかりやすい実験装置や体験型展示物を用いて紹介しました。

SCIENCE 01「パルスパワー・プラスマの世界」
プラスマや衝撃波を用い、ガン治療や殺菌、食品加工、環境などへの応用を目指す研究を紹介

SCIENCE 02「爆発と衝撃波の世界」
衝撃波による金属の接着や、食品を衝撃波で柔らかくする「爆衝レンジ」などを紹介

SCIENCE 03「衝撃超高压・超重力場、衝撃プラスマ」
下における物質の世界超高压や超重力を発生させる仕組みや新物質の合成について紹介

SCIENCE 04「超合金 KUMADAIマグネシウム」
世界2001年に熊本大学で開発された、強くて軽く、熱にも強いマグネシウム合金を紹介

来場者に説明を行った関係者や学生は、研究成果に関心を示す企業や実験に興味津々の子どもたちや保護者のみなさん、そしてテレビや新聞など各種メディア取材陣の来場に十分な手応えを実感しました。

また、地元・熊本においても、2月4・5日に行われた「2010くまもと産業ビジネスフェア」に同様の実験装置を再現し、たくさんの方々に好評を得ました。



夢科学探検



夢科学探検2009

昨年11月3日(火)に、「夢科学探検2009」が開催されました。夢科学探検は、「理学部探検」、「工学部探検」、「もの・クリ・Challenge」および「第55回化学への招待」からなり、年間を通して黒髪南地区最大の催しになっています。

夢科学探検2009の展示総数は96件でしたが、当日は多少寒かったものの晴天に恵まれ、小学生、中・高校生、保護者および一般市民など入場者数は二千名ほどであり、盛況のうちに行事を終了することができました。

夢科学探検2009の成功は、ご協賛およびご後援をいただいた企業ならびに団体からのご支援によるところが大きいと考えています。また、理学部、工学部、および自然科学研究科の教員・技術職員・学生の皆様方には、この催しの企画・運営に多大なご協力をいただきました。この場をお



工学部運動会



借りして、厚く御礼を申し上げます。
夢科学探検2009
実行委員会

第二回工学部運動会

工学部運動会の始まりは明治43年の工友会運動会に遡ります。その後、運動会は参加者の減少により平成11年度を最後に一時中断しましたが、運動会の再開の志を持った工学部学生会は多くの困難を乗り越え平成20年度に9年ぶりに再開第一回の運動会を開催しました。第二回運動会は、平成21年10月11日(日)午前9時から熊本大学運動場(武夫原)にて開催されました。

本年は、大学設立60周年の記念の年です。学生会運動会実行委員は、今年が武夫原にて盛大な運動会を実施しようとして夏休み前から企画を開始しました。学生会の広告宣伝や工学部のサポートもあり、今年度は昨年度の約2倍にあたる900名を超える学生と谷口



学長、両角工学部長、そして多くの教職員が参加する大運動会となりました。

当日は好天に恵まれ、土ほりと汗の中、徒競争・玉入れ・大縄飛び・綱引き・障害物競争・リレーなどの恒例種目に加え、「棒引き」などの往年の競技が復活し、熱い戦いが繰り広げられました。また、今年度は工学部資料館から10年ぶりに太鼓が引き出され、応援に一役買いました。運動会では、参加者・サポートともども開始から終了まで勝負に一喜一憂しながら、学生諸君はもとより教職員も大いに楽しむことができました。競技の結果、第二回工学部運動会の優勝は物質生命化学科、準優勝は機械システム工学科、第三位は数理工学科となりました。

本運動会が昨年にもまして盛大に実施できましたのは、工学部運動会の復活の志を引き継いだ学生会の熱意と努力によるものです。また、本行事に多くの参加者を得られましたことを、関係諸氏に深く感謝申し上げます。今後とも工学部運動会のご支援の程、よろしくお願いいたします。

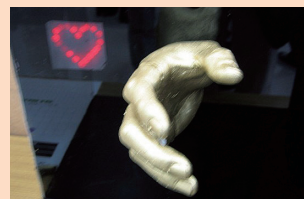
WINTER CHALLENGE もの・クリCHALLENGE

WINTER CHALLENGE 2009

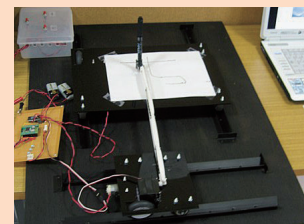
冬に開催されるWINTER CHALLENGEは、構想力や表現力を競う製作主体のコンテストです。テーマは今回で3年目となる「あかり」を継続しました。



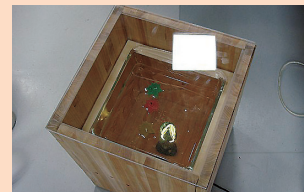
「あかり」から放たれる「ひかり」によって日常のなげない空間や、ある瞬間に、しみや幸せ、興奮を感じるなど「あかり」に関する提案を形にしました。応募件数は9件、これまでの作品を超えるための様々なアイデアや工夫を盛り込んだ作品が製作・展示されました。コンテンツへの連続出場者も見られ、確実な作品の進歩が審査員を感心させる場面もありました。最優秀賞は、25枚の鏡がレーザー光を反射した軌跡が迷路のように自分だけの模様を描き出す不思議な空間「Labyrinth」(建築学科 浦川史親君)、優秀賞では、水の揺らぎが織り成す波紋を投影させ、日差しの中で水面の反射に揺



最優秀賞「とどける手」



優秀賞「キンデン」

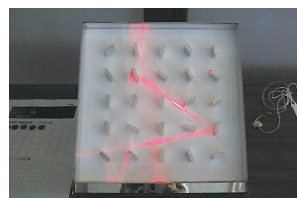


優秀賞「波ニユケーション」

もの・クリCHALLENGE 2009

「もの・クリCHALLENGE」は、自由な発想を競うコンテストです。製作部門(アイデアを実際に製作する作品)とアイデア部門(デジタル作品やアイデア提案などの製作を伴わない作品)の2つに分けて開催しています。今回のテーマは「とどける」です。環境を未来にとどける、想いを相手にとどける、何かをとどける...「とどける」を学生たちの

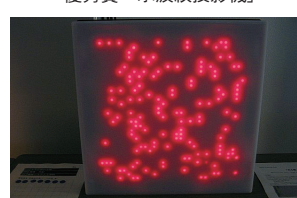
れる光の束を演出した「水波紋投影機」(代表:機械システム工学科 山之内寛貴君)と、マイコン制御の64x64のLEDをタイマーやセンサーで白い壁に突然文字やパターンが現れる「文字が現れる壁」(代表:機械システム工学科 浦川史親君)が表彰されました。



最優秀賞「Labyrinth」



優秀賞「水波紋投影機」



優秀賞「文字が現れる壁」

創造力で表現します。製作部門10件、アイデア部門4件の参加でした。大学祭で一般公開の審査会が行われ、地域の子もたちや学外からの見学者も投票ができます。世界にひとつの創造性豊かな作品たちは今年も見学者に夢や興奮を与えることができました。今回の最優秀賞は「とどける手」(機械システム工学科 有田雄一朗君)が受賞。握手をすると光を放ち、さらに握手をした数がカウントできる金色の手を製作しました。優秀賞では筋電信号によってペンを動かす意思を伝達する装置「キンデン」(筋で伝える)(代表:情報電気工学科 原部翔君)、揺らぐ光を波の形に放出し、上から見ると美しい透過光が楽しめる椅子「波ニユケーション」(代表:社会環境工学科 浦生涼太君)が表彰されました。



もの・クリCHALLENGE 2009
主催:熊本大学工学部

経済産業省低炭素化実証実験プロジェクト

熊大キャンパスで“曲がる太陽電池”の実証研究開始！

フィルム型太陽電池の適用拡大による低炭素社会実現モデル事業
事業推進委員会委員長・工学部長 両角 光男

●大学キャンパスを実証実験のフィールドに
皆さんは工学部2号館講義棟の屋上に、カマボコ型の太陽電池パネルが載っているのに気づきましたか？ 工学部研究棟1の南側壁面にもフィルム型太陽電池を取り付けましたし、3月上旬には、工学部1号館5階の南西端にも、板状の太陽電池ユニットが取り付けられました。

熊本大学では、これまで省エネや資源リサイクルなどキャンパスのエコ化に取り組んでおり、工学部も、キャンパスを実証研究のフィールドとして活用しながら、低炭素社会実現に貢献する技術開発に積極的に取り組ん

てきました。上記の太陽電池は、工学部が熊本県や企業と共同で取り組んでいる「フィルム型太陽電池の活用技術実証実験プロジェクト」の一環で取り付けられました。

●プロジェクト名「フィルム型太陽電池の適用拡大による低炭素社会実現モデル事業」
このプロジェクトは、平成21年5月に経済産業省が公募した「低炭素社会に向けた技術シーズ発掘・社会システム実証モデル事業」に、熊本県、熊本大学、富士電機システムズ株式が共同で応募し、1億円強の事業として採択されました。くまもとテクノ産



【撮影】イノベーション推進機構



【撮影】イノベーション推進機構

●実証研究の主な内容
工学部研究棟1の壁面では、金属フレームをボルトで固定し、そこにワイヤーで7.56kWの太陽電池を取り付けました(壁掛け式)。工学部2号館の屋上では、パラペットと呼ばれる防水層抑えの小壁の上に、クレーン車で

業財団の中に研究チームを組織して取り組んでおり、本学からは、工学部長が研究代表を務める他、大学院自然科学研究科田中智之准教授(フィルム型太陽電池設置方法の実証研究)や溝上章志教授(後述する電動アシスト自転車)の共同利用システムの実証研究が参加、事業参加者の活動調整役として本学イノベーション推進機構の大串渉教授も参加しています。

富士電機システムズ株式のフィルム型太陽電池は、基板にプラスチックを使っていて、ガラス基板を使った多くの太陽電池に比べて遥かに軽く、曲げても使えるのが特徴です。従来だと基礎工事に費用や時間がかかり、取り付け場所も限定されがちでした。そこで、大規模な補強工事などをせずに既存建物の壁面や屋上に取り付けたり、郊外の遊休地などに簡易に設置したりする方法を実験し、施工の容易さ、耐久性、安全性、発電効率等の点から検証することで、太陽電池の普及を拡大するのが狙いです。

アーチ状の鉄骨フレームを載せかけ、5.76kWの太陽電池を取り付けました(ソーラーアーチ)。屋上の防水工事をやり直すこともなく、実質2週間ほどで工事を終えたのは驚きでした。

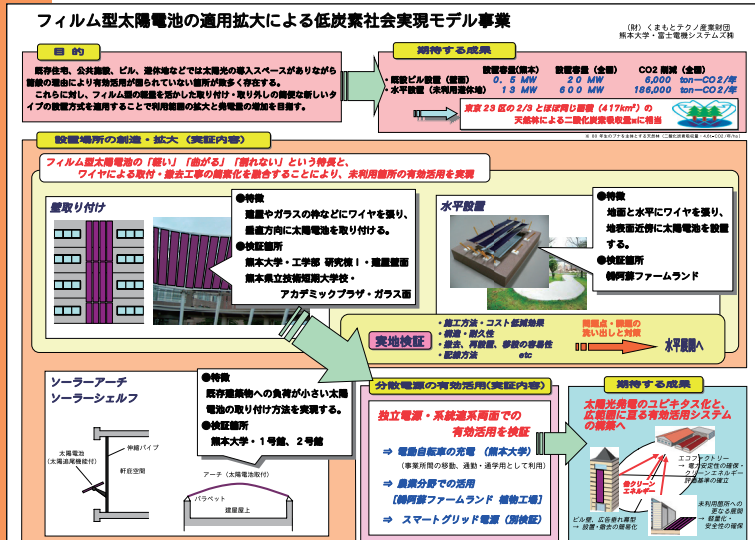
工学部1号館5階南西端では、軒下に金属パイプを取り付け、そこに地元企業(株)ミヤマムラが開発した板状のフィルム型太陽電池を9組(合計0.5kW)設置しました(ソーラーシエル)。6組は、太陽の動きに応じてパネルが向きを変える追尾式。水本郁郎准教授も開発に参加しました。

発電した電気の利用面では、パナソニックサイクルテック(株)ががわの自転車などの協力で、電動アシスト自転車10台の共同利用システムを開発し、実験します(電チャリ)。ウェブ予約により通勤・通学やキャンパス間移動に利用してもらうことで自動車を削減するのが狙いです。公募で30名の方々に実験していただくことになりました。

熊本県立技術短期大学校では、車寄せの曲面ガラス壁に、ワイヤーでフィルム型太陽電池を取り付けました。阿蘇ファームランドでは、地面から立ち上げた金属パイプの間にワイヤーを張ってフィルム型太陽電池を取り付けたり、カマボコ型の建物の屋根面にフィルム型太陽電池を広げ、ワイヤーで固定したり

する施工方式を実験します。発電した電力を同じ敷地内にある植物工場で使用し、得られる経済効果を計るのも重要な検証課題です。

【プロジェクトの構想説明図】



【出所】くまもとテクノ産業財団・熊本大学・富士電機システムズ

物質生命化学科

今春、学部4年生は、13名が就職し、59名が大学院等に進学しました。最近の傾向として、企業は技術系採用においては、学部生よりも修士学生の採用に力を入れており、技術系の職種を目指す多くの学生は修士への進学を目指します。修士2年生の多くは化学メーカーを中心とする企業の研究、開発職として就職しました。深刻な不況の真只中ではありますが、本科では(苦労した学生もありませんが)希望する学部・大学院修士生はほぼ全員就職することができました。これは、本人の努力は言うに及ばず、既に社会で活躍しておられる本科卒業生の「尽力」、また卒業生の努力がこれまでに勝ち得た熊本大学への厚い信頼によるものであります。もちろん、保護者の方々の温かいサポートなしに実現できるものではないかっことは言うまでもありません。

会に求められる技術者、研究者の育成を行っておりますが、高付加価値のモノ作りが求められる我が国においては、高度な知識や技術を持った人材の育成が急務です。本科では大学院までの一貫教育により、専門性を高める卒業研究、修士研究に加え、特に大学院では、専門家として真に国際的に活躍できる人材育成を目指して、高度教養教育、海外インターンシップ(大学が費用を負担)などの学生支援プログラムを充実させています。今後、国際的な活躍の場では、博士号を取得していることが非常に重要です。本科の博士号取得者は、例外なく優れた教育、研究機関、企業等へ就職しておりますので、力とその意思のある学生には安心して進学を勧めて頂きたいと思っております。

この4月、本科は新入生、および3年次編入生併せて約90名のニューフェイスを迎えています。将来、大きな夢を実現するための地力を、ここ熊本大学で十分に蓄えて欲しいと願っております。彼らが社会に旅立つ頃には世界経済ももう少し好転しているといいのですが。

社会環境工学科

私達の生活は、様々な社会基盤(インフラストラクチャー)の中に成り立っています。たとえ水、ガス、電気、通信などは生活をする上で欠かせません。さらに、人やモノが移動するときには、道路、鉄道、空港、港などの交通ネットワークを使います。これらすべてが生活を支える「社会基盤」なのです。私達の生活を安全にそして美しく豊かに営むのに不可欠なこれらの社会基盤を、環境に配慮しながら計画・設計・建設・維持管理していくとともに、地域社会の問題解決のための技術や政策を提供していくのが「社会環境工学」なのです。社会環境工学は、一言で言えないほどたくさんの分野の集合体です。

身近な生活空間から地球環境に至る壮大なスケールのひろがりをもっており、ひとつの学科にまとまるとは思えないほどの専門分野をカバーしています。社会・人間・自然を相手にした多彩な学問であるがゆえ、理系・文系を問わず、様々なタイプの人が活躍の場があります。○自然のメカニズムや数理的なことに関心のある人
○ものづくりが好きな人
○環境に興味のある人
○まちづくりに興味のある人
○社会や人間など文系に興味のある人

社会基盤整備は規模が大きいため、期待される寿命も、50年、100年と長くなります。そのため、50年、100年を見通した先見性のある計画、耐久性、景観への配慮、施設デザインが必要とされます。社会基盤の設計・デザインは難しい作業です。が、とても創造的な作業です。明治30年(1897)に「第五高等学校工学部土木工学科」として誕生した本学科は、東京大学(明治11年)、京都大学(明治30年)に次いで全国で3番目に古い土木工学科です。1997年には設立100周年を迎え、卒業生は約4,700名に達します。熊本は、東を阿蘇などの山々、西を有明海に囲まれ、熊本市街地には1級河川の白川が流れるなど自然環境に恵まれており、社会環境工学の研究に非常に適した土地柄です。また、熊本市街地の規模が約65万人と大きくすぎず、さまざまなことで社会実験などの実施に適しており、研究を通して熊本のまちづくりに直接参加できることが大きな魅力です。公共事業は、官公庁(国や地方自治体)が計画・予算決定・建設・管理をします。ですから、官公庁は全ての段階に関わります。ただし、全てを官公庁が行うのではなく、設計や工事が得意な会社と協力して事業を進めていきます。建設系コンサルタントは主に「どんな形にするか」を、建設会社は主に「どうやって形にするか」を担当します。卒業生の半数が大学院へ進学しています。大学院修了後は、公務員、建設業、建設系コンサルタントへの就職が多数を占めています。また、建設分野や環境分野を得意とするソフトウェア開発やシステム設計といった情報関連企業へ就職する学生も少なくありません。4月には76名の新入生も入学してきました。彼らはこれから4年間かけて社会環境工学に関わる教育と研究に触れ、社会へ羽ばたいていくこととなります。

毎年8月に開催されます本学のオープンキャンパスにおいて、工学部では研究室公開を実施しています。全学科で研究室を公開し、パンフレットを片手に、興味のある研究室を自由にご覧頂くことができます。受験を控えた高校生の方だけでなく、保護者の皆様にも、工学部で日々行われている研究の一端を感じて頂ける絶好の機会です。合わせて、旧高等工業学校時代に導入された工作機械(機械遺産にも指定)と赤レンガ造りの建物が国の重要文化財に指定されています。工学部研究資料館もご覧いただけます。

研究室公開のお知らせ

2010

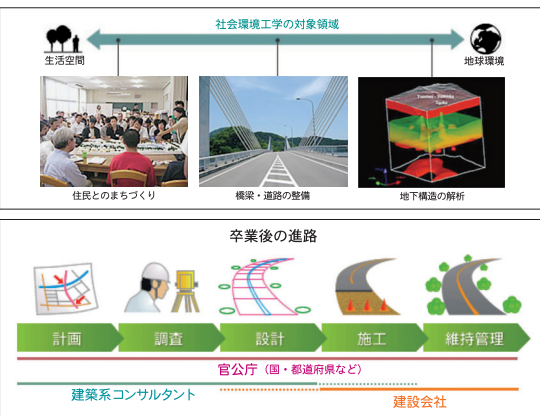
工学部研究室公開 オープンキャンパス

毎年8月に開催されます本学のオープンキャンパスにおいて、工学部では研究室公開を実施しています。全学科で研究室を公開し、パンフレットを片手に、興味のある研究室を自由にご覧頂くことができます。受験を控えた高校生の方だけでなく、保護者の皆様にも、工学部で日々行われている研究の一端を感じて頂ける絶好の機会です。合わせて、旧高等工業学校時代に導入された工作機械(機械遺産にも指定)と赤レンガ造りの建物が国の重要文化財に指定されています。工学部研究資料館もご覧いただけます。

ぜひご自分の目で工学部をご覧頂き、したいことや興味のあることを見つけてませんか。皆様の多数のご来場をお待ちしております。

日時：平成22年8月10日(火)
9:30～15:10

場所：熊本大学
黒髪キャンパス南地区
対象：高校生から一般まで
参加：無料。
事前申込みも不要です。
主催：熊本大学工学部
問合せ先：電話
096134213522
工学系教務企画担当



卒業生からのメッセージ

佐々木 祐一

知能生産システム工学科(機械系)平成14年卒
三重工業株式会社機械・鉄鋼事業本部機械事業部部長
化学プラント、ガスプラント、
製鉄所などで製品の生成に必要な
空気、ガスを圧縮するコンプレッ
サーやそれらを駆動する蒸気ター
ビンを設計するコンプレッ
サ技術部で蒸気タービンの詳細
設計業務を担当しています。機
械駆動用の蒸気タービンは発電
用のタービンに比べ比較的小さい
ものですが、それでもロータ
(回転体)の直径は最大で2mほ
どあり、加えて可変速であるた
め発電用タービンとは違った設
計の難しさがあります。

最近では開発業務を担当する
ことも多く、昨年はジャーナル
軸受の開発を行いました。ジャー
ナル軸受はロータの重量を支え、
振動を減衰させ安定してロータ
を回転させるための重要部品で
す。およそ一年半の期間で基本
計画から詳細設計、実負荷運転
までを周りの協力を得ながら一
人で担当しました。自分が設計
したものが、実際に形になり運
手される様子を見ることが、
この仕事の一番のやりがいだと
思います。

学生時代の学問は実際の物作
りと結びつき難く単位を取得す
るためだけに終わってしまった
こともあると思いますが、今
学んでいることは機械を設計す
る上で必要となりますので、就
職してから後悔しないように勉
学に励んで下さい。

工学部長と学生代表との懇談会

恒例となった工学部長と学生

代表の懇談会が、平成21年11月
9日の夕刻(17時~19時30分)に
開催されました。工学部側の出
席者は、両角工学部長、里中・村
山両副工学部長、尾原教務委員長、
各学科の学生支援委員、杉山教
務企画係長、坂口係員、および
奥野学生支援委員長でした。学
生側は、各学科の学生会から、
それぞれ2名程度が出席しまし
た。

工学部長の挨拶と出席者の自
己紹介の後、各学科の学生代表
から提出された14項目の要望・提
案について検討が行われました。
各項目について、学生代表から
の補足説明があり、主として工
学部長と副工学部長から回答が
ありました。かなり長時間の懇談
会でしたが、学生代表の諸君は
最後まで積極的に討議に参加し
てくれました。

学生代表からの要望・提案の内
容と教員からの回答は、工学部
のホームページ
<http://www.eng.kumamoto-u.ac.jp/index.php>
に掲載されています。一部の項
目には、懇談会後の工学部長な
どの対応も含まれています。ぜひ
ご覧下さい。

懇談会で話し合われた多くの
項目のうち特に注目されるのは、
環境の美化やマナー向上に
関する話題です。学生代表の諸
君からは、「ミシ箱や清掃(項目2、

9)、駐輪(項目3)、喫煙(項目
10)等について現状の問題点が指
摘され、改善の提案がありまし
た。

これに対して工学部長は、ゴ
ミ箱の設置や駐輪場の整備など、
工学部としてできることは可能
な限り早急に対処することを約
束しました。駐輪場の整備・拡張
については、すでに工事が始まっ
ています。

さらに工学部長は、環境の美
化や駐輪・喫煙マナーなどにつ
いては個人の自覚が重要であるこ
とを指摘し、工学部と工学部学
生会が主体となって「マナー向上
のためのキャンペーン」を実施す
ることを提案して、全員の賛同
を得ました。現在、工学部長、
両副工学部長、学生支援委員長、
教務企画係、および工学部学生
会が協力して、4月の新学期に
キャンペーンを実施するための
準備を行っているところです。

このキャンペーン計画は工学
部長によって全学の委員会に報
告され、そこでは工学部と工学
部学生会の取り組みが高く評価
されています。同時に、このよ
うな活動を全学に展開できるよ
う、工学部で着実な一歩を踏み
出してほしいと期待されていま
す。

「かけはし」をお読みの先輩方
各位におかれては、4月からの
キャンペーンを暖かく、そして
厳しく見守っていただきたいと
思います。もしお気づきのこと
があれば、工学部の教職員まで
お知らせいただければ幸いです。

短期滞在研修プログラム

熊本大学は2008年に南台

科技大学工学院(台湾、台南市)
と大学間学術及び学生交流協定
を締結し、昨年と同様に、南台
科技大学から28名の学生を熊本
大学で2週間受け入れ、工学部
単独のサマープログラム(南台
科技大学短期滞在研修プログラ
ム2009)を行いました。

短期研修の参加学生は日本語
やエネルギーに関する講義を日
本語で受講し、日本文化(茶道、
着付)、日本でのマナーやものづ
くり(車の分解、灯籠作り)を体
験しました。また、阿蘇や山鹿
方面への見学旅行、ソーニーセ
ミコンダク九州や草本バイオ
マスエネルギー利用施設(阿
蘇)の見学を通じて、地域の環
境や産業・科学技術に関する理
解を深めました。最終日には、
工学部長から修了証書が全員に
手渡されました。修了証書の授
与後、短期研修プログラムの参
加者、工学部学生会の学生、南
台科技大学からの交換留学生、
工学部事務スタッフ及び教員を
交えた送別レ
セプションが
行われ、2週
間の滞在期間
で親しくなっ
た学生同士が
楽しく一時を
過ごしまし
た。



関西の活動拠点「熊本大学関西リエゾンオフィス」がオープンしました!

2010年3月13日(土)、関

西の企業関係者や本学同窓生な
ど82名の参加の下、熊本大学関
西リエゾンオフィスの開所式と
記念シンポジウムが盛大に開催
されました。この施設は、工学
部と熊本大学イノベーション推
進機構が中心になって準備して
きたもので、東大阪市にあるク
リエーション・コア東大阪内に京
大、阪大など関西14大学と東北
大学のオフィスに加え、200
9年10月に本学のオフィス開設
が特別に認められたものです。

本学は、個性豊かな大学作り
と国際競争力のある教育研究の
展開に取り組みながら、その成
果を広く社会に還元する様々な
活動を行いました。主なものは、大
学からの教育研究活動に関する
情報発信、先端科学技術の情報
交換や産学官連携の共同研究や
受託研究の実施およびそのため
の研究者・技術者のネット
ワークの構築などで、その活
動を熊本ばかりでなく、国内
外に展開することです。関西
オフィスは、これまでのま
ちなか工房(熊本市)、東京リ
エゾンオフィス(東京、CIC)、
上海オフィス(中国)、韓国オ
フィス(太田、SASU)に続
くものであり、今後、本学の
関西地区企業との連携拠点
本学卒業生の支援、教職員の
研究活動の活動拠点としての
活用、展開が期待されていま



住所:
大阪府東大阪市北1-4-1
リエゾン・コア東大阪内
連絡先:
TEL:06-7747-9200
E-mail:
kansai@kumamoto-u.ac.jp
(現在、担当者は常駐
していません)

編集委員会